

園内に咲く四季折々の花や色とりどりの実、季節を告げる生きものなどの自然の情報を、季節をおつてお届けします。今回は**晩秋の植物園**です。晩秋の寒い中でも植物(生き物)はたくましく生きています。その一コマをどうぞ。尚、バックナンバーは(公財)仙台市公園緑地協会ホームページ「杜のひろば」よりダウンロードできます。



アオキ[青木] (若い果実)
実は、この後赤く熟して翌年の4月頃まで残る。雌雄異株。



イイギリ[飯桐] (実) 赤く熟した実は落葉後も初冬まで残っていて目立つ。雌雄異株。



カラタチ[枳殻] (実) (キコク)
果実は球形で、直径約3センチと小さい。黄色に熟す。実は食用にはならない。



サザンカ[山茶花] 品種
花：10月下~12月 園内では売札所周辺の生垣のサザンカが色鮮やかに開花する。



オヤマボクチ[雄山火口] (そう果)
花は秋に咲くが、気づかぬうちに終わってしまい、晩秋まで残るそう果は遠くからでも目立つ。



カシワ[柏] (枯葉と春を待つ冬芽)
カシワの葉は、秋に落葉せずに翌年まで残る。冬芽はふかふかの毛で覆われている。



タチギボウシ[立擬宝珠] (実)
果実は熟すと3裂し、中には沢山の黒い種子が入っている。



セイヨウサンザシ [西洋山査子]
花：5月 9月頃から赤い実をたくさんつけます。実の時期が長いので、雪が積もるととても目立ちます。



ルリギク (ストケシア) [瑠璃菊] (実と総苞片)
総苞片には棘状の鋸歯があり、実の時期の方が際立ち人目を惹く。花は瑠璃色。



ドイツズラン[独逸鈴蘭] (液果)
葉っぱが茶色に枯れてもオレンジ色の実は残っている。実は沢山の年と付かない年あり。



コアジサイ[小紫陽花] (蒴果)
花はすべて両性花で装飾花はない。黄色に色づく蒴果と葉も、晩秋まで残り美しい。



ヒメシャガ[姫射干]
花：5月
やや乾いた林下を好む



ワレモコウ[我木香] 花卉がないので実と勘違いされることが多い。種ができるころは茶色に変色する。



ツバキ[艶蒔] 品種名：竜頭
野生のツバキよりも遅く開花するので、晩秋まで見られる。



タマブキ[珠蒔・玉蒔]
花の季節はクルリと巻いた花柱、実の時期は純白の冠毛、季節毎に楽しめる。



スギゴケ[杉苔]
杉の苗にそっくりの苔。園内には他にも多くの苔が生えていてそれぞれ人気がある。



キキョウ[桔梗] (蒴果)
蒴果は面白い形をしている。中には、ゴマに似た沢山の黒い種子が入っている。



松の雪吊り 雪の重みで松の枝が折れないように(美観目的も含む)、毎年晩秋になると雪吊りを行う。園内の冬の風物詩。



ニガクリタケ[苦栗茸]
広葉樹などの切り株に束生する、淡黄色~鮮黄色のキノコ。初冬まで見ることができ。毒がある。



ヤマガラ[山雀]
夏場はほとんど姿を見せず、カヤエゴノキの実る頃から翌春まで観察することができ。餌台に来た姿が可愛い。